



1. 学内で行った看板掲式の様子。服部学長と木口社長。 2~4. キグチテクニクスの黒鳥工場(サテライト)。

共同研究講座

島根大学 共同研究契約 民間機関等

共同研究講座及び共同研究部門

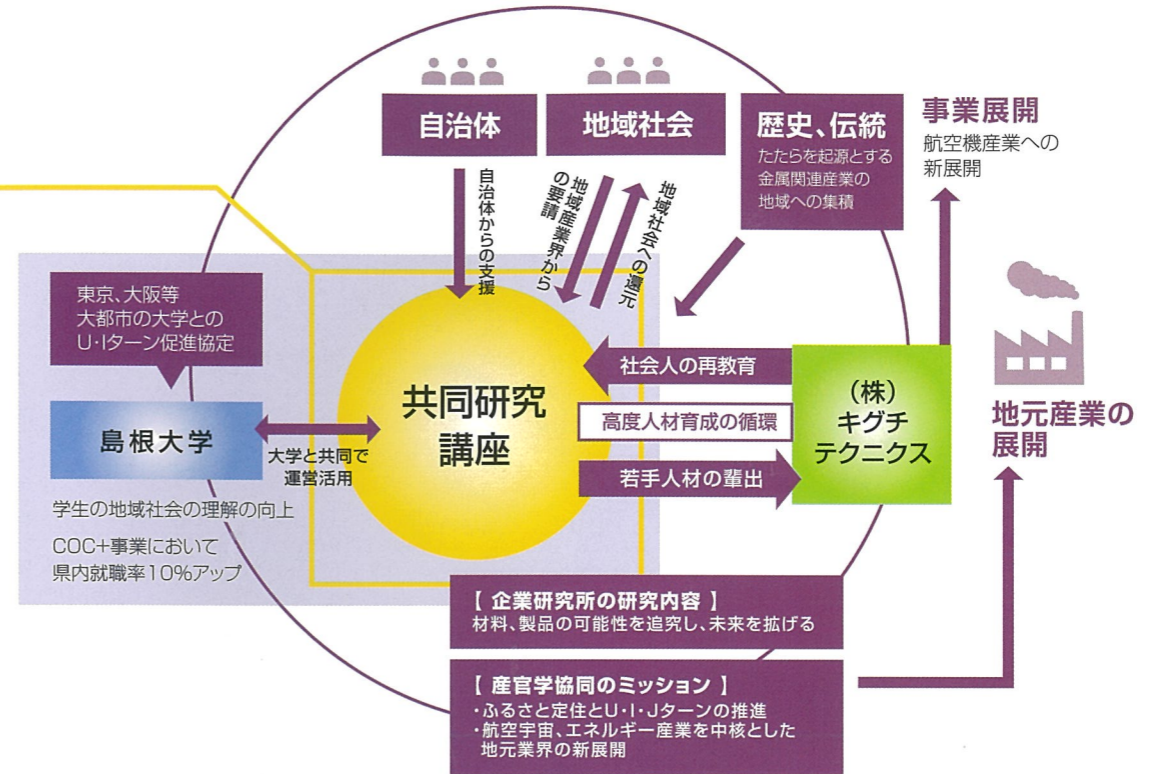
●概要
民間機関等と大学が協議して運営
期間:2年以上5年以下(更新可)
発明:原則共有(共同研究契約に基づく)

●教員の構成
【原則】
教授又は准教授1名 及び教授、准教授、講師又は助教1名
※学長が特に認めた場合は、教授又は准教授1名、特任教授又は特任准教授1名とすることができる。

選任教員以外に共同研究講座の運営に参画することが想定されるスタッフ
・兼任教員 ・大学院生 ・ポスドク ・民間等共同研究員 等

共同研究講座が目指すもの

地域社会とそこに集積された産業を未来につなげる一端を担いたいと考えています。



地元企業と大学がともに人材育成・産業発展に取り組む キグチテクニクスと共同研究講座を設置

10月18日、本学と安来市にある材料試験所のキグチテクニクスは、本学初の共同研究講座を総合理工学研究科に設置し、服部学長とキグチテクニクス木口代表取締役社長ほか関係者が出席し、看板掲式を行いました。共同研究講座とは、民間企業と大学が共同で運営する組織で、地方の大学と地元企業が共同研究講座を持つのは、全国でも珍しい事例です。

対等な立場での運営 研究のスピードアップに期待

現在島根大学では、5件の寄附講座を受け入れるとともに、130(140)の共同研究を行っています。新たに設置した共同研究講座は、大学と企業が協議して講座を運営し、知的財産や研究成果を共有、また、企業の研究者を教員として受け入れることが、寄附講座や共同研究と大きく異なる点です。

「キグチテクニクス構造材料共同研究講座」では、航空機のエンジンに使用される部品用の耐熱合金や複合材料をはじめとした高温・高応力下で使用される構造材料に係る研究・開発を目指します。「これまで、企業と大学、それぞれの場所で行っていた研究ですが、大学内に講座を設置して企業の方に常駐していただくことで、常に意見のやりとりをしながら研究を円滑に進めることができます。さらに、研究者間の交流だけでなく、企業と学生との交流も期待できます」と、講座担当の大庭教授は話します。

夢を夢で終わらせない 両者の熱意が実らせた 共同研究講座開設

島根大学と共に講座を運営する「株式会社キグチテクニクス」は、航空宇宙産業へ参入している国内でも有数の試験機関です。航空宇宙関連の国際認証Nadcap(ナドキャップ)や、IHIやGE、三菱重工業など世界的企業からの認定を取得しています。「日本のものづくりに携わる企業を陰で支えることのできる会社がキグチテクニクスなんです」と木口社長は言います。

キグチテクニクス 島根大学 共同研究講座への期待



株式会社キグチテクニクス
木口 重樹 代表取締役社長

せっかく立ちあがった講座ですから、大学の先生方と自社から出向いた社員とが、話し合いを重ねながら煮詰めたことについて、できる限り協力をしていきたいという想いです。ここで育った優秀な人材が、都会が良いからと出て行ってしまわずに、山陰に目を向けてこの地に一人でも多く残っていただけるように、そして、島根大学の総合理工出身者はこんなにごいんだと、社会に出てから言われるような後押しを私たちはしていきたいと思っています。



総合理工学研究科 研究科長
廣光 一郎 教授

総合理工学部は、改組により平成30年度から新しい学科編成で教育や研究を行っています。この改組では地域からの要請に応えられる教育体制の構築を特に重視しました。今回設置された共同研究講座は、産学の連携により材料工学分野の研究を各段に発展させるものですが、私は、教育面での効果にも大いに期待しています。株式会社キグチテクニクスと連携して講座を運営することで、地域産業の発展を先導する人材を育成できると考えています。



株式会社キグチテクニクス
三浦 哲也 総務部長

この講座には「人材の育成」と「研究」という2本の柱があります。キグチテクニクスでは、日頃から人々の生活をより便利に快適にして行くために、さらには、航空機の安心・安全な運行に寄与し人々の尊い生命を守るために、という意識を持って業務に取り組んでいます。この研究もそこに立脚し、先端材料と結晶学というふたつのキーワードをもとに、大きく翼を広げてほしいと願っています。日本において、この分野をけん引するメッカになればと思っています。



総合理工学研究科
大庭 卓也 教授

この講座が、島根県の産業の発展に資するような形になればと考えています。学生の皆さんには、島根県には良い企業がたくさんあることを知ってもらい、本学から県内に人材が出て行き、それが地元産業の活性化に繋がっていくと嬉しく思います。大学で学生を教えていると、学んでいることがどこで役立つのか分からないという声を少なからず聞きます。講座の様子を見ていただくことで、こんな場面で役立つのかというのが見えてくると良いかと期待しています。



株式会社キグチテクニクス
永島 光 試験員
総合理工学部 理工特別コース
物質科学科 平成29年3月卒業

私は総合理工学部の出身です。キグチテクニクスは、合同説明会に参加した際に仕事への自信と責任感を感じ、この人たちと働きたいと思い採用試験を受けました。講座に関する打合せにも参加していて、出身大学と職場が連携することをとても嬉しく思っています。学生のうちに企業の方と接する機会というのは限られているので、一緒に研究をしながら企業情報も知ることができる環境は学生にとってかなりプラスになると思います。



総合理工学研究科
キグチテクニクス 構造材料
共同研究講座
遠山 文夫 特任教授

着任してからまだ数か月で手探り状態ではありますが、発展的な可能性を追求するような研究を通して、学生と一緒に成長でき、また少しでも教育に役立てればと思っています。それが地元産業の人材育成、産業の活性化に繋がっていくことを期待しています。今回の講座は、産業界と大学という違う世界の研究者が大学の中で密に連携をとるといって、地域初の試みであり、地域イノベーションがおこるきっかけに繋がればと思っています。

共同研究講座設置のきっかけは、服部学長が総合理工学部の学部長だった4〜5年前にまで遡ります。「当時学部長だった服部学長にお会いした際、研究所を作って一緒に研究開発したいですね、なんて話をしていたんです」と、キグチテクニクスの三浦総務部長が当時を振り返ります。「学長に就任されてから、わが社へお越しいただく機会があり、そこでお互い熱く思いを語り合い、少しずつ積み上

げていこうという話になりました」と続けます。乗り越えるべき課題も多く、紆余曲折ありながらも両者の熱意で少しずつ前進、そして、2017年3月には島根大学とキグチテクニクスは包括的連携に関する協定を締結しました。この連携の中核が共同研究講座です。

人を育てること、そして地域での研究開発が夢だと話す木口社長は、「キグチから出向いている社員と

大学の先生方とで、学生さんを手を育てていただいて、やっぱり山陰は良いところだと思ってもらって、活



4.11月8日〜11日にメッセナゴヤへ出展し、来場者に向けて共同研究講座をPR。
5.くびきメッセで10月に行われた金属物性研究会へも参加。

力みなぎる人材が山陰で活躍していただくことを願っています」と、講座への期待を語ります。さらに、「航空機材にも対応できる独立した試験機関というのは全国でも二社しかないんです。それができる会社が島根県にあるというところに誇りを持っています。ですから、こんな会社

用されるニッケル基超合金について、耐熱性を上げる材料にするためにはどのような熱処理を行えばよいか、というのもテーマのひとつです。「今は世の中の流れとして「低燃費」を求められていますよ

たようです。

講座の活動が本格始動 地域社会と 産業を未来に繋げる

講座の活動はまだ始まったばかり。現在は、研究テーマを選定しているところ。例えばジェットエンジンやガスタービンなどの部材に使

「低燃費」を求められていますよね。航空機ももちろんそうで、少ない燃料で長く飛ばしたい。燃費を良くするためにはエンジンの燃焼温度を上げると良いのですが、そうすると、より高い温度に耐える材料が必要になるんです」と大庭教授が説明します。